

| | | |
|---------------------------|--------------------|---|
| えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬 | 会 報 第 267 号 | 2023年10月25日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠 |
|---------------------------|--------------------|---|

1. 活動報告（事務局 記）

- 10月1日（日）天気にも恵まれ、会員15名で、次週の稲刈りのためのハゼ掛け用の竹の確認、一部の草刈り、刈った草の片づけと焼却、水路の上部の水漏れ箇所修復、蓮田のエコアップの作業を行いました。
- 10月8日（日）天気は時々小雨が降中ですが、子供たちは元気に稲刈りをしてきました。最初に市長による挨拶と刈りはじめをして頂き、全員で稲刈りに入りました。稲刈りの後で、子供たちはサツマイモを掘ってもらいました。最後に刈みてとして、シシ汁とお結びを食べてもらい解散しました。参加者は、親子自然観察隊（親27名、子32名、幼児3名）、子ども会（親6名、子7名）、宇部市長と市関係者3名、市民センター長、二俣瀬小学校長、二俣瀬自治会連合長、来訪者（親2名、幼児2名）、会員28名と会員家族3名でした。
- 10月18日（水）ハゼ掛けの稲の乾燥も進み、脱穀を行いました。稲をハゼから外し、軽トラにて辻野会員の田んぼへ運び、コンバインで脱穀をしました。参加会員は10名でした。その後で、水路の水が流れていないので、水漏れ箇所を探し仮補修をしました。
- 10月22日（日）二俣瀬ふれあいセンターにて臨時総会を行いました。
 1. 下半期の活動でつくる会がすべき作業などを協議しました。
 2. 観察隊や市の環境政策課などが残して欲しい用具などを確認しました。
 3. 不要な用具の処分と譲渡者などを確認しました。
 4. つくる会の残金をどのように使うかを今後の作業日に話し合います。
 5. 解散式は来年の4月か5月始め頃に宇部市内（予定）で行います。
 6. 宇部市より来年度の活動（ビオトープを守る会（案）と親子自然観察隊）の説明参加者は会員22名でした。

2. 今後の予定（事務局 記） ◎行 事

- 11月5日（日）維持活動（草刈り、駐車場草刈り）
- 11月18日（土）親子自然観察隊（里山の暮らし）
- 11月26日（日）維持活動（草刈り・エコアップ）

3. 来訪者の声

9月27日 つくば市 藤井（元会員？）
久しぶりです。稲も良くみのっているようで安心です。次はいつこれるかわかりませんが、その時には、また寄らせていただきます。

4. 会員の声 「 」 （記） 今回はありません。

5. 親子自然観察隊 「 稲刈り・芋ほり 」 （菅 哲郎 記）

お天気が心配されましたが、朝からの雨もなく皆さんも大勢参加してくれました。宇部市長さんの参加もいただき、総勢 115 名が参加されました。

まず宇部市長様より稲の「狩り始め式」を行っていただき、早速稲刈りにかかりました。その前に稲刈りの「開会宣言」を観察隊と子供会の代表者の子供たちに宣言していただき、また担当リーダーより稲刈りの方法と注意事項を行っていただきました。途中小さな雨が降り始めましたが、少し地面が濡れた程度で、あまり作業に影響はありませんでした。落穂ひろいも済ませ、ハゼかけも済ませ、稲刈りは思ったより早く終わり、10分ほどの休憩ののち芋ほりに移りました。

雨がひどくなれば地面がぬかるみます、芋ほりを中止することも考えましたが、幸いにも雨脚はそれ以上激しくならず、無事芋ほりを終了しました。今年のイモは小ぶりでしたが、子供たちが掘るにはちょうどよく、みんな楽しく掘り取っていました。

作業を終え、「刈りみて」として「シシ汁」と「オムスビ」がふるまわれました。二俣瀬でいただく”イノシシ肉”は絶品です！焼いても、煮てもおいしくいただけます、提供してくれた会員にお礼申し上げます。

稲穂の中の”マムシ”の心配、カマでの切り傷の心配、芋ほりでの“スコップ”などによるけがを心配しましたが、幸い事故もなくイベントを無事終えることができました。

芋ほりの後の地ならし作業、雨の中の後片付け、100人分のシシ鍋づくりとおにぎりづくり、などなど、今回は準備作業が大変でしたが、会員の皆さんのおかげで、全く心配なく宇部市長を迎え、立派に稲刈りができたと思います、12月の収穫祭が楽しみです。会員の皆様、ご苦労様でした。



宇部市長の挨拶



宇部市長による「狩り始め式」



稲刈り



ハゼ掛け



サツマイモ掘り



刈みてでシシ鍋とお結びを



稲刈りを済ませた後の記念撮影です

親子自然観察隊の感想

★王丸（母）

人生はじめての稲刈り体験に親子共々とても楽しい思い出になりました。鎌で刈り取る作業も慣れてくると、さくつきれると、とてもすっきりとした気持ちになりました。稲穂を束ねる作業は、初めはゆるくしかたばねられませんでした。だんだんきつきたばねることができたあたりで、作業も終了となったので、名残惜しさを感じたものの、稲穂が綺麗に並ぶ様子に美しさと何とも言えない達成感を感じました。お米を作るのは本当に大変だと感じ、たべるときに感謝するようになりました。よいきっかけを作ってください、本当にありがとうございました。

★豊田優那

稲をかまで刈るのが楽しかったです。慣れてくると、スパッと切れるようになって気持ち良かったです。お芋掘りは、お芋が深いところにあるのが難しかったです。おにぎりと豚汁がすごく美味しかったです！

★豊田（母）

娘は初めて鎌を握りましたが、親の心配をよそに、上手に扱って刈ることができていました。刈り取ってすぐに食べられるわけではなく、乾燥させたり脱穀したりと、その後の行程も学べて良かったと思います。来年は稲作の体験が無くなると伺いましたが、今年参加できて幸いでした。ありがとうございました。

★高松真輝

カマを使ってやる稲刈りは初め難しかったけど、やり方が分かってどんどん楽しくなりました。芋掘りは宝探しみたいで楽しかったです。

★日高茉莉子

芋掘りは、1年生の時以来でした。スコップを入れる向きを考えて掘っていきました。芋を揺らしすぎて、芋が折れてしまいました。とても楽しかったです。

★日高梨琴

私は2年生のときに芋ほりをしました。ビオトープでは、掘っても掘ってもお芋が続いていたので、掘るのが楽しかったです。

★河村直樹ん

最初は鎌で稲を刈るのが難しかった。慣れてきたころに終わりました。猪汁、初めて食べて美味しかったです。

★河村卓弥

稲が思ったより硬かったです。干す場所まで稲の束を肩に担いで持つのが楽しかったです。さつまいもをたくさん掘ることができて嬉しかったです。

★河村（母）

開始した頃、鎌の扱いに慣れず苦労していた子供たちでしたが、しばらくすると他の子供達同様に慣れた様子でどんどん稲を刈り楽しそうでした。頑張った分、全て終了したときの達成感を味わえたと思います。今までの活動では家族単位、もしくは友人家族と交流する程度でしたが、今回は子供も大人も付近の方々と協力して作業をし、コミュニケーションが深まったと思います。稲刈りとは、そういうものなんだろうと実感しました。

★中島瑞輝

きょういのししじるをたべておいしかったよ。またおやしでんでたべたいな。

★秋田菜那

鎌で稲を刈るのが楽しかった。またやりたい。

★秋田（母）

いつも貴重な体験をさせていただきありがとうございます。皆さんと一緒に頑張った後の猪汁とおにぎり、本当に美味しかったです。

★岡村政吾

稲を刈るのが、楽しかったです！大きいバツタも見つけられました。

★岡村悠正

稲を刈るという体験が、いまどき珍しい活動なので、出来て良かったです。

★岡村(母)

稲刈りそのものだけでなく、鎌を扱う、藁で縛る、竹に掛けて乾かす等々、ひとつの活動で多くのことを学ぶことが出来て有難いです。普段お米を農家の方から買っているの、息子たちはその方達も同じようにして生産してくださっているのだというのを肌で感じたようです。貴重な機会を、ありがとうございます。

★丸本（子）

お米を作るのが大変だという事が分かった。八十八の作業があるなんてびっくりした。思ったより泥だらけになった。稲を刈る時の感触が面白かった。いのしし汁が美味しかった。

★篠田（母）

金色に輝いていた稲があつという間に刈り取られ、田んぼの中に並んだはず掛けがまた美しい光景で、印象的でした。去年教わった稲の束ね方をだいたい覚えていて、今年は去年より上手に出来たぞ！と自画自賛。子供たちが稲刈りに芋掘りに夢中で作業する姿は見ていて微笑ましかったです。作る会の方々が用意してくださった美味しいおむすびと猪鍋を、

あぜ道に座ってとても幸せな気持ちで頂きました。本当にご馳走様でした。家に帰り、芋の茎をせっせと筋取りしてきんぴらにして頂きました。子供達にも大人気。有り難い食事となりました。今回も大変お世話になり、貴重な経験をありがとうございました。

6. ピオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(92) キンケハラナガツチバチ *Megacampsomeris prismatica* ツチバチ科

7月～10月に現れ、体長17～27ミリのやや大型のツチバチです。北海道を除く日本全土に生息します。黒色で金色味をした黄褐色の毛で、光の当たり具合で金色に見えますので、この名前をもらったようです。畑地や草原などの草花でよく見られます、コガネムシなどの幼虫を狩ります。ヒメハラナガツチバチをはじめとし、数種類の同じ仲間がみられますが、ハラナガツチバチだけでも10種類ほどいます。



キンケハラナガツチバチ♂



キンケハラナガツチバチ♂



キンケハラナガツチバチ♀



左の大きいハチが♀で右が♂



キンケハラナガツチバチ♀

7. 会よりの連絡事項

- 1) 臨時総会を行い、来年3月までに行う作業の方針が決まりました。ため池の橋の設置や水路の水漏れ箇所補修やエコアップなどの作業が主になりますが、残りの作業日も少なく多くの方が積極的に参加されてスムーズに進むことをお願い致します。

8. 編集後記 (原谷 一誠 記)

臨時総会にて今後の作業について方針が示されたことで、いよいよつくる会も解散へ向けて行動します。23年間このビオトープに携わってきた者にとっては、とても寂しい事ですが、若い人が入ってこず高齢化ではいかしかたないことだと諦めるしかありません。次年度からは、市が中心となって作業などの活動を行かれるとの事なので、出来る範囲で協力はしようと思っています。